「PTAだより」2018 vol.4 卒業式記念号

素敵な大人に

PTA会長 奥村 倫子



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様、お子様が立派に成長され、今日この日を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。そして校長先生はじめ先生方におかれましては、子どもたちをここまで温かく導いてくださいましたことを、保護者を代表致しまして、心より御礼申し上げます。そして、あんなにも小さかったあなた方が、こんなにも大きく成長し、無事に高校の卒業式を迎えることができました。これまで、たくさんの幸運と見えない力に助けられてきたことを忘れずに、

この奇跡に感謝し、喜びをかみしめたいと思います。

さて、卒業生の皆さん、私は皆さんに素敵な大人になってほしいと考えています。そのために、私から三つのことをお伝えしたいと思います。一つ目は「見た目を磨く」、二つ目は「多くの経験をする」、三つ目は「感謝の心を伝える」ということです。

まず、知らないもの同士が初めて会った時に、相手を判断するのは見た目です。 中身はもちろん大切ですが、その中身を知ってもらうためにも、見た目はとても 大切です。清潔感のある、場をわきまえた服装を心がけることは、周りへの配慮 であり大人としてのマナーです。自分自身を客観視し、自分がどうあるべきかを 常に考えられる大人になってください。

次に、多くの人と関わり、多くの経験をすることで、自分の中に引き出しをたくさんもつことができます。人間的な幅も広がります。とりわけ苦労した体験は、自分を強くし、身も心も成長させてくれます。相手の立場や気持ちを考えられるようになりますし、その後の人生を乗り越えて行く力にも結びつきます。失敗を恐れず、多くの経験から多くのことを学んでください。

最後に、「ありがとう」という感謝の言葉は幸せを生むと言われています。先輩、後輩、仲間たち、先生方、そしてご家族。皆さんのこの三年間を支えてくれた人達に、ぜひ言葉に出して感謝の言葉を、心を伝えてほしいと思います。皆さんは、ひとりではありません。心から応援してくれる人達がいることを忘れない

でください。

結びになりますが、本日、このような晴れの席において祝辞を述べさせていただけることをたいへん有難く思います。子を持ったからこそと、感謝の気持ちで一杯です。卒業生の皆さんに幸多かれと心からの祝福を贈り、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

「昨日までの自分を越えてゆけ」

校長 森 直人



保護者の皆様、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。皆様には、これまで物心両面で本校のためにお力添えをいただき、本当にありがとうございました。

本校は、校訓「創造と勤勉」のもと、学校目標として「学力と人間力を育成し、自己実現を図ること」を掲げ、これまで教育活動を実践してきました。卒業を迎え、多くの生徒の皆さんがその期待に応え、立派に成長してくれたことは、教職員一同、この上ない喜びです。

卒業にあたって、私が皆さんに特に期待することは「昨

日までの自分を越えてゆけ」ということです。これは、昨年の10月26日に行われた本校創立40周年記念講演会における鈴木大地スポーツ庁長官の演題でもあります。実はこの演題は、私の方から長官にお願いしたものです。それに応えて長官は、自分の人生は自分自身の力で切り拓くことの大切さを、自らの経験をもとにわかりやすく語ってくださいました。例えば、ソウル五輪で、体力の消耗が激しいバサロキックを25mから30mに伸ばすことに挑戦し、見事に金メダルを獲得できたこと、マンネリ化していた練習環境を変えるためにアメリカに留学をしたこと、そこでスポーツの目的は勝つことではなく、楽しむことと一生の友人を得るためにあることだと気づいたこと、大学院に進み、専門知識を身につけ、指導者への道を歩むことを決意したこと、そして今はスポーツ庁長官として、水泳だけでなくすべてのスポーツの発展を目標に、特に2年後の東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて努力を続けていることなど、まさに長官の生き方そのものが「昨日までの自分を越えていく」ものでした。

今世の中は、第4次産業革命と呼ばれる急速な技術革新のまっただ中にあります。AI、ロボット、IoT、ビッグデータなどの登場により、十数年後には今ある職業の半分以上は消滅し、変わってまったく新しい職業が次々と誕生す

ると言われています。加えて急速な少子高齢化とグローバリズムの進展により、 我々の前には今までの常識では予測不能な未来が立ちはだかっています。果た してこれはピンチでしょうか、チャンスでしょうか。私は、もちろんチャンスだ と思います。そうした時代の変革期に対応していくためには、柔軟な発想で、新 しいことにどんどんチャレンジすることで、「昨日までの自分を越えていく」こ とが必要不可欠です。

その実現のためのキーワードは、本校の校訓「創造と勤勉」にあります。「創造」とは、文化や芸術面で才能を発揮することではありません。「昨日までの自分を越えていく」ためには、人のモノマネではない自分オリジナルの創意工夫が必要である、ということです。また「勤勉」とは勉強に限ったことではなく、どんなことにでも地道に努力を続けることが大切である、ということです。本校の校訓である「創造と勤勉」を、卒業してからも胸に刻み、皆さん一人一人が「昨日までの自分を越えて」いってくれることを、心から願っています。

本校卒業生であることに、誇りと自信を持ち、未来を自らの力で切り拓いていってください。皆さんの前途に幸おおからんことを、心より祈念しています。









ひととき

3年学年主任 9組担任 辻 太一朗

『青は藍より出でて、藍よりも青し』

この3年間で感じたことと今後の君たちの活躍を期待するとこの言葉が浮かびました。

3年の時間【とき】をともに過ごす中、日々成長していく君たちを見るのはとても楽しかったです。この成長の勢いがあれば、卒業した後も輝けること間違いなしです。大きくはばたいてください。

僕は、高校教育の目的は社会に飛び立つ準備と考えています。その準備とは、何事(得意な科目・苦手な科目・部活動・学校行事)にも一生懸命に取り組み、応援されるような人間性を身につけることです。僕は今、君たちを応援しています。頑張っている姿を見たからです。君たちはこの3年間で次のステージに進む準備ができました。この先も苦難は続きます。でも、さらにその先には乗り越えた者にしか見えないモノがあります。それを手に入れて人生を彩らせてください。

最後に、この3年間をやりきれたのは、素直な生徒、学校の指導に協力して頂いた保護者のみなさま、そして生徒にしっかり寄り添ってくれた先生方のおかげです。皆様とこの日を迎えられて本当に喜ばしく思っております。

卒業おめでとう。いい『ひととき』を ありがとう。





卒業にあたって

1組担任 伊藤 信一郎

これから先は、自分の言動に責任を持 ち周囲の人たちから信頼される人物に なってください。

活躍を期待しています。

目には見えなくても、 価値のあること

2組担任 玉城 雄也



卒業おめでとうございます。みんなと過ごしたのは2年間ですが、とても楽しく、充実した日々でした。こうして卒業式を迎え、みんなを見送れることを嬉しく思います。

振り返ってみると、3年間でいろいろなことを頑張ったのではないでしょうか。勉強や部活、行事に励んだことは鮮明に思い出されると思います。頑張るということは、木の根っこを伸ばしていくようなことだと僕は思っています。それが、地上の果実に結びつくかどうかはわかりません。それでも、人は果実を信じて目に見えない地中の根をせっせと伸ばしていきます。

みんなは、一宮南高校の3年間で、一生懸命根っこを伸ばしてきました。小さな変化かもしれないけれど、大きな価値のある成長です。これから進む先では、多くの場合、目に見える成果が求められます。でも、目に見えるものが、ほんとうのものとは限りません。みんながやるどんなことにも意味があって、今は目に見えなくても、巡り巡って自分や他人を支える力になってくれます。

これから先、周りの才能に気後れすることがあるかもしれませんが、そんなと きはせっせと根っこを伸ばしてください。そうやってこつこつと頑張ることが、 きっとみんなを良い方向へ導いてくれるはずです。僕はそう信じています。



「すべての出来事には 意味がある」

3組担任 三宅 由里

これは、私が大学生の時に友達からもらった言葉です。

例えば、なにか辛いこと苦しいことが起きたとき、あなたはどう考えますか? その出来事は必ずあなたに何かを教えてくれます。その時のあなたに必要だから起こります。そう思うと、少し前向きになれますよね。

出会う人もそうです。私が38回生のみんなに出会えたことには、必ず意味があると思っています。これからの人生の中で、色々な出会いや出来事があると思いますが、その全てに意味があると思って、ぜひ自分を高めていってください。

『人生で起こることすべて』が自分自身なのです。君たちと出会えて、一緒に成長できて良かった!卒業おめでとう!!!

そして季節は巡る

4組担任 船橋 淳子

皆さんの卒業を嬉しく思い、心から お祝いします。皆さんとはこの学校に 一緒に【入学】しましたから、喜びもひ としおです。卒業に当たり、最後の1年 であるこの1年を振り返ってみます。



- 春一受験生の実感が持てず、なんとかなると思ったり、訳もなく足がすくんだ。
- 夏-天王山と言われながら、これでいいのか確信が持てないままイタズラに時間が過ぎてしまった気がした。
- 秋ーなりたい自分に近づいていけない焦燥感に泣きたくなったこともあった。
- 冬-日没が早くなる頃、やっとこれでいいと思える日々が続くようになったのに、時間が足りない。でもその顔は、もう逃げてはいなかった。そして・・・ 太陽がその高度を再び上げ始め、大きなうねりを乗り越えた顔を明るく照らす。

未来を予測する最善の方法は、それを自分で作り出すこと。だから、今日を精 一杯生きることが明日の自分を作るのだと。夢は思い描いた瞬間にその手の上 にあると言います。後はそれをつかもうとする意志だけ。

今、これからの人生の第一歩が始まります。ここまでやってきたすべてを自信にして、支えてくれるすべての人の暖かさを追い風にして、さあ、扉を開けて新しい自分に会いに行きましょう。心地よい風とともに新しい春が待っています。



「前へ! 上へ!!」

5組担任 宮田 敬

今日まで駆け上がってきた、人生という「山」の高さからの眺めはいかがであろうか?少なくともこの1年の上り坂は、今までと比類なきくらいの険しさであっただろうから、

目に映る景色もきっと抜群であろう。

しかし、4月からも坂は続く。上がれば上がるほど、気温は下がり酸素は薄くなる。でも、今見える景色よりもっと素晴らしい。それが見たいのであれば、前を見て上を見て進め。絶景は君たちを待っている。

卒業、おめでとう。

ともに歩んだ3年間

6組担任 山川 貴大

卒業おめでとうございます。みなさんと 一緒にこの3年間で、様々な経験をさせて いただきました。みなさんには感謝しても しきれません。本当にありがとう。

初担任としてともに歩んだ1年1組。サプライズ好きな子ばかりで不思議な雰囲気のまま1年間が過ぎました。終業式の日に、まるで卒業式であるかのように涙を流



す女子たち、そして記念撮影する男子たちに自然と笑みがこぼれました。

初めての理系担任としてともに歩んだ2年7組。とにかく毎日元気で笑いが 絶えませんでした。ある子が黒板に描いた「サバサバ系女子」と「ロールキャベ ツ系男子」が頭から離れません。これが理系クラスのノリか、と文系出身の私は 毎日実感していました。

受験生の初担任としてともに歩んだ3年6組。本当に受験生なのかと疑うぐらい活気に溢れた、個性派ぞろいのみなさんの底力に圧倒された1年間でした。 受験は団体戦と言われるにふさわしい一体感がありました。みなさんに支えられて、私もこの日を迎えることができました。

これからの人生では、常に自分と向き合い、自力でレールを敷いてください。 今までのように自然と敷かれたレールは存在しません。それは自由を意味する のと同時に、常に責任が付きまとうことも意味します。目の前に現れる一つ一つ の壁と真摯に向き合いながら、自分が納得いく決断をしてください。そのために は、いつまでも南高での思い出に縛られず、新たな一歩を前に踏み出しましょう。 私はみなさんの今後の輝かしい活躍に期待しています。またどこかで会いましょう!

卒業おめでとう

7組担任 川合 久美子

君達と出会ってから、もう1年が過ぎようとしています。クラスでは、「皆のことで本が一冊書ける。」と小言を並べることもありましたが、皆の素朴で温かな笑顔に担任として幸せを感じる1年でした。皆にとっても、悩み躓きながらも成長した年月だったのではないでしょうか。

この4月から、それぞれの場所へ新しい一歩を踏み出す君達に、私の好きな詩を贈ります。



「星とたんぽぽ」

金子みすず

青いお空のそこふかく、 海の小石のそのように、 夜がくるまでしずんでる、 昼のお星はめにみえぬ。 見えぬけれどもあるんだよ、 見えぬものでもあるんだよ。 ちってすがれたたんぽぽの、 かわらのすきにだアまって、 春のくるまでかくれてる、 つよいその根はめにみえぬ。 見えぬけれどもあるんだよ、 見えぬものでもあるんだよ。

本当はそこに存在しているのに見えないもの、気づかずに過ごしていることが多くないでしょうか。一枚の紙から木や水が、草花から光や土が見えているでしょうか。今ある自分がたくさんのものに係わりここにあると見えているでしょうか。本当に大切なことは五感だけでは感じられない見えないところにあるのではないでしょうか。新たな場所で君達が、それぞれの大切なものを見つけることを願っています。

卒業おめでとう。

人生に必要なもの

8組担任 朱宮 弥生

卒業おめでとうございます。充実した 3年間だったという人もあれば、悔しい 思いをした日々を振り返る人もあるで しょう。しかし、皆さんの人生はこれか らの方がずっと長い。いつかきっと、楽 しい思いをし、喜び、一生つきあえる友 人を見つけることができます。



人生に必要なものは、希望を持つことと、努力を続けることです。誰でもできることを、誰もできないくらい長くやる。これが皆さんを支える自信になります。

平坦な道ばかりではありません。謙虚に、自分の置かれた状況で精一杯の努力を して、幸せをつかんでください。

前途に幸あれと祈ります。



後輩へ『贈る言葉』 ~高校生活~

3年2組 前川 紗良

一宮南高校の生活で中心となる「勉強」と「部活」について、お話をしたいと 思います。

まず、勉強は部活動や学校行事で忙しいと疎かになってしまいがちですが、 1・2年時にしっかり基礎を固めておくことが大切です。そのためには、毎日の 予習や復習をこつこつと行ってください。大変ですが、3年生になれば努力は必 ず実を結びます。

次に、本校は部活動にとても力を入れている学校です。勉強との両立が難しく、 なかなかうまくいかないこともあると思いますが、勉強以外のことに全力で取 り組むことは、将来の皆さんにとって本当に良い経験になるはずです。

高校生活の最後には大学受験が控えています。辛いときもありますが、皆さんは一人ではないこと、本校には頼れる先生方や互いに切磋琢磨し合える友達がいることを忘れないでください。そして、最後まで諦めないでください。応援しています。







先輩へ『贈る言葉』 ~感謝~

2年5組 加地 優奈

3年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。また、入学してから今まで、 様々な場面でお世話になりました。

特に私がマネージャーとして関わったサッカー部では、目標である「県大会出場」に向けて、毎日一生懸命練習する先輩方を間近で見てきました。試合の場面では、どんなに苦しい状況であっても諦めずに戦おうとする姿は、本当にかっこよかったですし、いつも選手をサポートし心から勝利を願っていた先輩マネージャーの姿にも感動しました。こうして迎えた最後の大会で見事に目標を達成した時の衝撃は、今でも忘れられません。皆で嬉し泣きをした事も、鮮明に覚えています。

また、私は南高祭で応援の副責任者として携わり、人前に立って指示を出したり後輩と協力して活動していくことの難しさを知りましたが、先輩方は積極的にそして主体的に群団全体をまとめ、行事を大いに盛り上げてくださいました。 学年に関係なく楽しめる南高祭を作り上げてくださった先輩方の凄さを実感しました。

さらに、日頃の生活においても、悩みごとに親切に相談に乗ってくださり、的確なアドバイスをいただけて、何度も何度も助けていただきました。そんな先輩方は私の憧れであり目標です。これからは私たちが後輩を支え、学校を引っ張っていける存在になれるように頑張ります。3年間本当にありがとうございました。











広報活動に携わって

広報委員長 岩本 祐恵

三年前、委員をお引き受けした時は、正直三年間活動するのは大変だなぁと思っておりました。しかし、取材活動で高校に出向く事で、一宮南高校について知る事が出来る良い機会となりました。

いつも学校へ行くと生徒達が元気に挨拶をしてくれました。

廊下では先生が生徒に勉強を教えてくださっている姿がありました。

南高祭では、生き生きとした生徒達の姿を見る事が出来ました。

今年度からはホームページで広報活動をお知らせしており、多くの方に高校 の様子を知っていただければと思います。

最後になりましたが、活動にご協力してくださいました広報委員の皆様、活動を支えてくださいました先生にお礼申し上げます。三年間ありがとうございました。